

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	筑波大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	個性とキャリアを繋ぐ医科学教育ルネサンス		
主たる研究科・専攻名	人間総合科学研究科疾患制御医学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 吉川 裕之		

[教育プログラムの概要]

■**背景**:医学系大学院のアドミッションポリシーは、①先端性、学際性、国際性を備えた高度研究者の育成、②「産・官」に開かれた教育実践により、研究者マインドを持った医療従事者、高度医学知識を持った企業人や国民のニーズに適切に対応できる行政人の育成である。一方、新時代の大学院教育のあり方として、①国際的な通用性、信頼性の向上、②大学院教育の実質化(平成17年の中央教育審議会答申)が求められており、当該大学院のアドミッションポリシーに基づく教育の具現化はこれに合致するものである。医学系専攻は「**魅力ある大学院教育**」イニシアティブ事業(平成17-18年度)に採択され、研究者育成のための新カリキュラムコースの構築、筑波研究学園都市を中心とした産・官とのインターンシップ、及び先進国での最先端情報の収集と開発途上国での教育研究開発を行った。その結果、国際拠点の形成及び大学院生の武者修行を通して大学院生の国際性、先端性及び自立性等を養う教育システムを強化することができた。平成19年度は、海外拠点の強化、秋葉原市民公開セミナー及び修士課程学生を対象とした企業インターンシップ等を実施すると共に、**イニシアティブ事業の検証**を行った。本申請プログラムでは、多分野で活躍できる医療人育成のプログラムを構築・推進することで本学大学院の医学系教育の原点回帰と再生(ルネサンス)を実施する。本申請プログラムは、大学院生の学際性、多様性、柔軟性、社会性等の強化を主眼とすることから、「**魅力ある大学院教育**」イニシアティブ事業を単に継承するのではなく、**新たな使命を持った発展型である**。

■**必要性**:わが国の大学院生の数は10年間で2倍以上に増加し、相対的に国立大学や公的研究機関の研究職ポストが減少した。一方で、社会的ニーズの多様化により、広い領域／分野のキャリアパスを積むための人材育成教育が求められている。すなわち、大学院生の潜在力を伸ばし、各人の個性に応じた多様化キャリアパスを可能とする教育システムが必要とされている。本学博士課程医学系2専攻の特徴的な点は、他の医学系大学院と比較して大学院生の30%以上が医学部出身者以外の学生であり、かつその大半が他大学出身者であることから、必然的に多様性のある教育システムが求められている。

■**目的**:本プログラムでは、多分野で活躍できる人材を育成するために、本学大学院人間総合科学研究科医学系専攻に所属する大学院生の進路に応じた下記の3種類のコースワーク(概略図)を設定する。博士課程医学系専攻に所属する各大学院生は、**グランドデザイン**として示された3種類のコースの中から将来の進路に合致したコースを自由選択することができる。

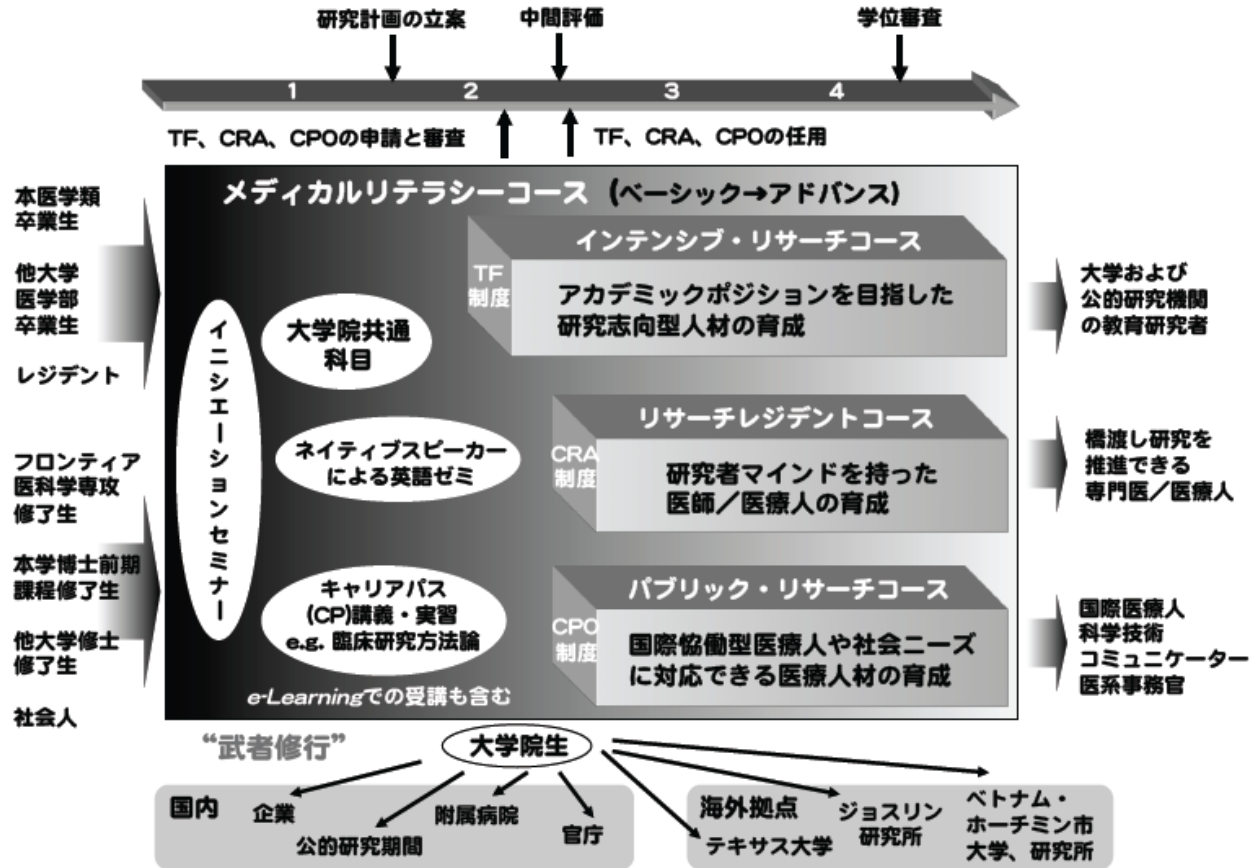
- ① **インテンシブ・リサーチコース**:アカデミックポジションを目指した研究志向型人材の育成
- ② **リサーチレジデントコース**:研究者マインドを持った医師／医療人の育成
- ③ **パブリック・リサーチコース**:国際協働型医療人や社会ニーズに対応できる医療人材の育成

■ **特徴**:本プログラムでは、入学時に**イニシエーションセミナー**を受講して3種類のコースワークの学習内容と目的を理解する。**メディカルリテラシーコース**では、たこ壺教育を打破するために、幅広い知識を修得する必修及び選択科目以外に、**大学院共通科目及びネイティブスピーカーによる英語セミナー**等を履修することで、関連領域に関する知識の向上やアカデミックインテグリティの基盤形成、国際的なコミュニケーション能力を涵養する。2年次修了時までには所定の30単位を取得し、学位論文について**中間評価**をパスした大学院生は、**各人の個性をキャリアに繋げるための異なるコースワーク**を選択する。最終的に国際水準の研究者を育成するだけでなく、橋渡し研究を推進する専門医や社会ニーズに応じた医療人等の育成も行う。

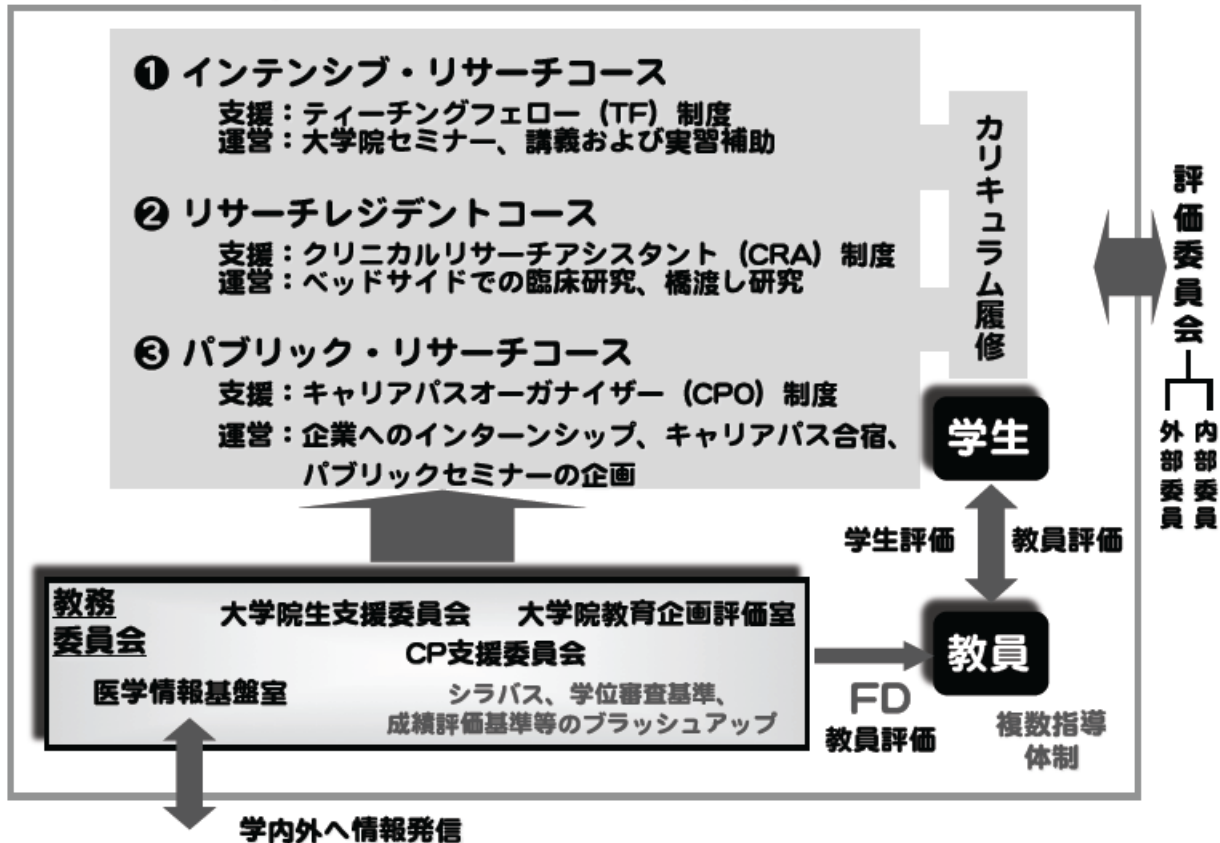
■**運営・支援体制**:従来の教務委員会に加えて、**大学院教育企画評価室**(シラバスの充実、FD、評価等)、**学術委員会**(学術賞／助成金申請等)及び**大学院生支援委員会**(ティーチングアシスタント(TA)／ティーチングフェロー(TF)制度への任用、学生表彰、奨学金、就職等)を設置して教育支援体制を強化する。コース①の学生に対する修学上の支援としては、TA及びRA制度を見直し、新たに**TA-TF制度**を導入する。コース②及び③では、**クリニカルリサーチアシスタント(GRA)**及び**キャリアパスオーガナイザー(CPO)**制度を設ける。講義の評価方法と基準、学位審査基準及びコース選択等に関する公表は、医学情報基盤室が中心となって情報環境を整備する。また、本プログラムの点検・評価は、外部委員を過半数含む**評価委員会**が行う。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

個性とキャリアを繋ぐ医科学教育ルネサンス



本プログラムの運営・支援体制



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、実質化に向けた教育体制の整備のために、大学の自己資金による任期付若手教員を採用する等、教員組織の整備が進められ、ファカルティ・ディベロップメントの実施体制が充実している点は評価できる。

教育プログラムについては、医学部以外の出身者が30%以上を占め、多様なバックグラウンドを持つ大学院生に対応するため、アカデミックポジションを目指した研究志向型人材を養成する「インテンシブ・リサーチコース」、研究者マインドを持った医師/医療人を養成する「リサーチレジデントコース」、及び国際協働型医療人や社会ニーズに対応できる医療人材を養成する「パブリック・リサーチコース」の3つのコースを設け、それぞれに応じたコースワークを設定し、大学院生が自主的にコースを選択することによってキャリアパスを積む訓練ができる体制としている。この取組により人材育成のプロセスや目標が明確化され、大学院教育の実質化に資する取組として高く評価できる。ただし、教育プログラムの実施に際しては、大学院生がコース選択の際に、それぞれの出身学部によって安易にコースワークを決定するのではなく、各大学院生の個性に応じた選択ができるよう、配慮が望まれる。また、リサーチレジデントコースでは、臨床研究の立案、学位論文の作成への十分な指導体制の確保や専門医取得（専門研修）との関係など、具体的に解決すべき課題に配慮することが必要である。